
カディスからの手紙（116-4）最終回の最終回

2006年8月3日

「レガッタ」の巻・其の四・フィナル

地元新聞によると、この帆船祭りでは25日の前夜祭から29日の海上パレードまでに延べ100万人の見物客が集まったのだそうです。主催者側発表は常にある程度は割り引いて考えないといけません但相当数の人数だったことは納得です。

私達のように会期中は毎日足を運んだ人も多はず。私達はバスも道路も比較的すいている朝のうちに出かけて午後2時～3時の昼食前に帰ってくるが多かったのですが、人出のピークは午後6時ごろから深夜にかけてだったらしい。

2日目の晩、レイノウドとガールフレンドのジャネットを招いて、ウチのベランダで夕食をしようと彼らを迎えに行った時はものすごい混雑でビックリしました。19時半ごろウチを出たんですが、普段なら15分弱で港に着くバスが1時間以上も掛かってしまいました。バスの中も勿論ぎゅうぎゅう詰めでした。



最後の夜、22時ごろの港内。



夜もとっぷり暮れた24時ごろ。会場内はこの通りの人・人・人。

毎日18時頃から会場内ではフラメンコや色々なバンド演奏など各種のイベントが予定されていたから帆船そのものよりソッチが目当ての人も多かったに違いありません。会場内は夜も人で埋め尽くされていました。

マストやヤードにイルミネーションを取り付けた船は案外少なくて、ウルグアイの **Capitan Miranda** とポルトガルの **Sagres** の二隻だけ、あとはライト・アップだけで、これは意外でした。

この夜は王立馬術学校の馬術ショーを初め盛りだくさんのイベントが用意されて会期中で一番多くの人が集まったようでした。そして深夜に近くなってからは大音響のディスコ・ミュージックで、舞台の周りでは大群衆が踊っていました。

フラメンコなどの公演は特にそうですが、およそこの町の夜の催しは開演が22時30分以後、終演は明け方というのが当たり前。時計が狂ってる訳じゃありませんよ。

こうなるともはや、帆船は単なる点景にすぎないみたい、または人寄せのネタというべきか？ 帆船そのものを見たくて来た人は果たして何割だろうかなどと余計な事まで考えてしまうほど港内の岸壁上で催される各イベントに人は群がっていました。

友人レイノウドも既に今日の午後下船してマラガ空港に向かっているはず。其処からアムスに飛んでまた事務局の仕事に戻るんです。彼にとってポルトガル～カアディス間の航海に乗船したことは仕事と言うよりも短い休暇だったのでしょ。

彼の生き方は趣味と実益の完全なる一致と言ってもいいでしょうね。普通の家庭を持つにはチョットなー、とも思えますが、それは余りに日本人的な発想で、この世界にすっぽりはまった彼は何の悩みもないように見えます。うらやましい。

この帆船祭りもいよいよ明日29日は朝から各船が順次出港して行って港外で再集結しセールを張っての海上パレードでフィナーレ、スペイン語ではフィナル **final** となります。私達も朝早くから港に出かけるつもり。ガンガンと鳴っているディスコの大音響にも辟易だし、今夜は早寝、といっても寝たのは2時ですけどネ。

*



朝もやをついて出てゆくノルウェーの **Christian Radich**。私達は防波堤の先端近くに陣取って出港する各船を見送りました。同じ発想の人で先端にもう余地はなし。

*

我がオイローパ **Europa**。防波堤をかわす前から既にセールを張り始め、私達の前を通る頃にはこの通り九分通りセーリングの用意は出来ていて、他の船とは帆走にかかる意気込みが違うことを見せ付けていました。フライング・ダッチマン **Klaas** 船長の面目躍如。



そして数百メートル先ではほぼフル・セール。Klaas の大きな鼻がウゴメいているのが目に見えるようです。古く小さい帆船ですが南極へも数回行っているんです。

*



ポルトガルの Sagres。私達は防波堤で **Europa** を見送ってから旧市街の海岸沿いに沖の船団を追って歩いてゆきました。各船は沖でセールを張りながらパレードの順番待ちをしています。**Europa** のようにいち早く帆走に移ったものやモタモタもあり。

*



スペインの誇る **Juan Sebastián de Elcano**。もう随分沖に出ているのにこの船のポイントたる三枚の横帆が張られていない。タレカさんなら「モタモタすんなー！」。



旧市街の北端バルアルテ・デ・カンデラリア Baluarte de Candelaria と帆船群。



こうして次々と出港した各船は沖でセールを張り、Juan Sebastián de Elcano を先頭にパレードをしながらカアデイスを後にしたのです。

左は Juan Sebastián de Elcano 中央はイタリーの Amerigo Vespucci そして、右端は Sagres。

この後はスペイン北西部のガリシア地方の港ラ・コルーニャ La Coruña まで親善航海を続け、其処からはベルギーのアントワープ Antwerp まで再びレースです。

それでは各船の健闘と安航を祈って、この項を終わりたいと思います。

*

¡Buen Viaje! (御安航を・・・) ¡Vaya con dios! (神と共に・・・=ご無事で・・・)

さて、お名残惜しいですが、この号で「カアデイスからの手紙」は終りとさせていただきます。長い間ご愛読くださった皆さんに改めてお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

私達の四年間のスペイン暮らしは一度も嫌な経験をする事なく、楽しいママにあつという間に過ぎてしまいました。日本に帰ることが嫌なわけではありませんが、出発の日が迫るに従って益々カアデイス去りがたしの気持ちがつのります。

友人やカアデイス唯一の日本人住人のMさんには、もうチョットいたら？とも言われます。昨日も遊びに来たMさんは、折角知り合えたのにマタ私一人になるワ、と別れを惜しんでくれましたが、マズマズの健康状態で帰れるうちに元気よく帰ろうと思えます。

そうすればまた日本でも楽しい事を見つけられるに違いないと思っています。

この辺がまさに潮時。

ところで、カアデイスの女性市長が、レガタの英語版案内パンフレットの巻頭で述べている言葉を紹介したいと思います。ここに謳われているカアデイスの町及びカアデイス市民の特色は、私達自身がカアデイス市民であったこの二年間に感じてきたことそのものです。この市長さんが、誇りを持ってカアデイスについて語っていることは間違いのない事実と言えるでしょう。

そして私達は、これから行こうとしている長崎にも同じような感じを持っているのです。長い鎖国中にも外国人と接してきた町、外国からの文化が真っ先に根付いた町、日本の津々浦々から外国文化に触れる為に集まってきた人たちを受け入れてきた町。

なんとなくカアデイスの歴史にも通じるような期待感を抱かせます。

では、お暇な折にでも読んでみてください。(以下原文のまま)

*

From the 26th and the 29th of July, the Tall Ships' Race fleet will moor in Cadiz, after coming from Lisbon to cruise then to the final to Antwerp, in Belgium. I am sure that in Cadiz we will have one of the best sailing event of the past years.

I am sure of it because, as Mayoress of this ancient town, I know well the affection and dedication that “gaditanos” render to all matters related to the sea and sailing. For centuries, Cadiz has been receiving visitors and cultures arriving by sea. Cadiz's sense of hospitality is its most appreciated treasure.

I welcome you on behalf of all “gaditanos”, and I would like to drink a toast with you for your stay in Cadiz to be unforgettable. Cadiz is the smiling city, the city from where most visitors leave a little piece of their hearts in the street of the Old Town. On Saturday the 29th, when you continue your nautical adventure and you leave behind the view of our Cathedral, then you will know that you too have become a “gaditano” and Cadiz will sail again in the Seven Seas with your dreams, your memories... You will be our most beloved ambassadors. Welcome!

Teófila Martinez Saiz
Mayoress of Cadiz

(文中の gaditano とは「カァディスの人」で、ほかならぬ私達も二年間はそのガディターノでありました。カァディス生まれではないけれど・・・。)

では皆さん、サヨウナラ。 ¡Adiós, hasta la Vista! (マタお会いできる日まで)

R y N

この最後の「手紙」は8月2日に発信するつもりで用意しましたが、ヒョンなことで2日夜に電話が切られてしまいました。電話会社の手違いですが、回復処置の要求もどこまでシカと実行されるか心もとない状態です。

結局知人の電話回線を使ってこれを発信しますが、今後、当方への電話及びメールがいつ回復するか、またはしないか今はいえませんが、これっきりとお願いしたいのが一番確かだと思えます。悪しからず。ではもう一度、サヨウナラ。